

ストリングの基礎知識

今回解説してくれるのは



解説=野口大貴
(テニスサポートセンター仙川店)
テニス歴14年。「お客様に合ったセッティングを見つけてます。ぜひ、お店に来てご相談ください」と語る。

解説Q&A

知っているようで、あまり知られていないストリングのこと。このコーナーでは、読者から寄せられた素朴な疑問を、プロのストリンガーに答えてもらいました。皆さんのテニスライフ向上に役立ててください

平均テンションの低下と“1本張り”、“2本張り”の違いについて

Q 最近ではテンションの平均値が下がっていると聞きました。それはなぜですか？
(テニス歴10年/40代男性)

張り機の性能アップとポリのデメリット緩和

大きな理由は2つあると思います。1つ目は『ストリングマシン』。張り機の違いによるものです。現在は電動式のストリングマシンが主流で、コンピュータの精密な制御によりテンションロスが最小限に抑えられ、指定した通りのテンションが出せます。それに対して、昔は『バネ式』と呼ばれるマシンがほとんどで、こちらは手でハンドルを回し、指定テンションでロックがかかるという仕組みでした。ハンドルを回すスピードや力加減などでテンションがばらついてしまい、指定テンションが出にくかったようです。そのため、例えば昔のバネ式マシンを使って60ポンドで張ったものが、現在の電動式マシン



現在主流の電動式マシンは、機械制御により正確な張り上げが可能

を使って53ポンドで張ったものと同程度の使用感になります。この誤差を考慮する必要がなくなったため低いテンションで張る方が増え、テンションの平均値が下がっているのです。2つ目は競技シーンにおいてポリストリングが主流になっていくということです。ポリストリングは独特な球持ち感とスピード性能、抑えが効くことによる高いコントロール性能があり、ラケットを振り切って強いボールを打てるため選手層の支持を集めています。ただし、打感が硬い、衝撃が大きい、飛ばないなどのデメリットもあり、初めて張る方には少々ハードルが高いストリングです。

Q 1本張りりと2本張りでは張り上がりにどのような差が生まれますか？
(テニス歴2年/20代男性)

ラケットの特徴を出すか 仕上がりを安定させるか

1本張りとは、1本のつながつたストリングをそのまま張り上げる方法です。

そこで、ポリストリングを低いテンションで張ることで、このデメリットを緩和したいという人が増えており、テンションの平均値が下がっているのです。

張り方のバリエーションが豊かで(アラウンドザワールド、ボトムアップなど)ラケットごとに奇麗な形で張り上げられる、というメリットがあります。そのため技術のあるストリンガーが張れば、ラケットの持ち味を引き出すことができます。また、テンションロスが発生しやすいノット(結び目)部分が2カ所なので、4カ所の2本張りに比べてストリングが緩みづらいことが特徴です。



ストリングの結び目であるノットは、1本張りなら2カ所、2本張りなら4カ所生まれる

対して2本張りは、2本のストリングで縦糸と横糸のそれぞれを張り上げる方法です。メリットは、張り方の種類がある程度決まっているため、仕上がりが安定すること。遠征の多いお客様は、遠征先では同じストリンガーに張ってもらえないため、ストリンガーごとの差が少ない2本張りを依頼するケースがあります。縦糸と横糸で分けて張るためノットの数が多くなってしまう、1本張りに比べてテンションが緩みやすくな

るリスクはあります。どちらで張ればいいのかわからない場合は、1本張りができるストリンガーに相談して、プレースタイルに合わせて選んでもらうといいでしょう。

ストリング都市伝説

1本のラケットを張るナチュラルガットを作るのに、牛2頭分必要?

高い伸縮性や反発性などの性能面で、ナイロン、ポリエステルなど他のストリングの追随を許さないナチュラルガット。テニスのルールが確立したとされる1870年代にはバボラ社が生産を開始しています。材料の供給

の関係で当初は羊の腸が使われており、今でも「シープ」という言葉が残っているのはそのため。現在では牛の腸が主流です。1本のラケットを張り上げるのに、牛2頭分の腸が必要になるそうです。



ナチュラルガットは高価だが、それを補って余りある性能を持っている

募集中

ストリングに関する質問を募集しています。年齢、性別、テニス歴を記入し、〒113-8448 東京都文京区本郷2-33-5 日本スポーツ企画出版社スマッシュ編集部「ストリング基礎知識」まで。質問が採用された方には、テニスサポートセンターより、ストリングをプレゼントします。